

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成19年 9月22日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 16時00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム たんぼぼ (熊本県)
評価調査員の氏名	氏名 淵上 一光 氏名 森脇 伸一
事業所側対応者	職名 ケアマネージャー 兼 相談員 氏名 國寄 信生 ヒアリングを行った職員数 (2)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日平成19年10月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	4 3 7 2 4 0 0 9 3 9
法人名	有限会社 ホリ
事業所名	グループホーム たんぼぼ
所在地	熊本県玉名郡南関町大字四ツ原1338 (電 話) 0968-53-8881
評価機関名	特定非営利活動法人PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成19年 9月22日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	14 人
利用定員数計	18 人
常勤	14 人
非常勤	0 人
常勤換算	14 人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	11 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.78 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大村医科歯科診療所、福島整形外科、医療法人親仁会 さかき診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の理念が全職員に行き届いていることが入居者の振る舞いから感じられます。清潔で明るく、ゆったりとした空間の中で、個々人それぞれにあったライフスタイルを過ごされています。特に代表者と入居者の家族的なつき合いには驚かされました。この代表者の思いが、全職員に浸透しているのでしょう。アットホーム的で清々しい感じを受けました。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	記録の管理は適切、厳重に行われています。スタッフの研修会も無理なく有意義に、また確実に行われています。これにより、スタッフ同志の認識も向上しているように思われます。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	毎月1回の全職員による勉強会において、自ら及び外部評価の意義を考え、改善すべき点を更に掘り下げ、具体化しながら改善に取り組んでおられます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は委員の人選、毎回の議題とも申し分ないと思います。ただ、意見や要望がもっと活発に出るように更なる工夫・努力が必要です。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	利用者の状況はきめ細かく把握されており、家族への報告も定期的になされているようです。今後の運営に活かすために、苦情・意見等を出してもらえる工夫をお願いします。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	グランドゴルフ大会の開催を通し、地域住民の方達との交流は深まっていると思われま。日常的に野菜や果物の差し入れがあるなどで、地域に溶け込まれていることがうかがえます。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくりあげ、実践している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝9時の申し送り時に、食堂の正面の壁に貼ってある理念を唱和している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グランドゴルフ「たんぼぼ杯」を開催するなど、地域に溶け込む努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回の職員勉強会は欠席者もほとんどなく、充実している。		
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実施回数が多く、行事の紹介等ではプロジェクトを使用するなど工夫が見られる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での町担当者との意見交換は不十分である。		町に対し、訪問依頼を続けるとともに、施設への要望等を出してもらうよう努力する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	きめ細かく利用者の状況を把握しており、家族に対しても定期的及び個々に合わせた報告がなされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」を玄関に設置し、苦情等の受け付けを行っている。また、寄せられた苦情等は速やかに運営に反映している。		苦情、意見等もっと活発に出してもらえるような創意工夫がもっと欲しい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者にとって職員の異動は好ましくないため、労働条件の是正には気をつけている。異動時に対応は適切に行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のホーム内研修は内容もバラエティーに富み、実技研修も多く取り入れるなど充実している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉名郡市GH協議会への参加により、他社との交流を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	ホームの見学や1日体験を通し、利用者がホームに馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、利用者からあらゆる機会に知恵を授かったりしながら、共にホームでの生活を楽しくしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	入居時や面会時に話し合いを行い、利用者の情報収集を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	当初のアセスメントをその後の情報収集により、より密度の濃いものへと発展させており、個々人に合ったケアプランが作成されている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	毎月のモニタリング・6ヶ月毎の評価・再アセスメントが行われ、ケアプラン作成に活かされている。利用者の急激な状態変化にも即応できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急連絡網の完備、職員の研修等、また医療機関との連携もとれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則、本人希望の医療機関を優先した上で、ホームとの提携医療機関から定期的な往診等も行ってもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時の説明は行われている。		家族の理解及び医療機関、職員が重度化や終末期に向けた方針が共有できるような対応を速く取ってほしい
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉掛けや対応についてはあらゆる会議・研修等で実施し、実務に生かされている。個人情報の取り扱いも厳重に行われている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の思いや希望を優先し、個々人に合った生活を提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
		食事を楽しむことのできる支援			
22	54	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせ、調理準備や配膳、片付けが行われている。		
		入浴を楽しむことができる支援			
23	57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、入浴が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
		役割、楽しみごと、気晴らしの支援			
24	59	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者それぞれの趣味や特技などを生かし、充実した日々を過ごせるように工夫している。		
		日常的な外出支援			
25	61	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に合わせて、食材の買出しや畑仕事、草むしり等を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
		鍵をかけないケアの実践			
26	66	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者のプライバシーに気をつけつつ職員が付き添い、見守りなどにより利用者の行動をケアしている。		
		災害対策			
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防署との合同訓練を行っている。また、地元の消防団にも依頼し、災害訓練の実施に協力してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医との連携により、利用者個々人に合った食事形態、食事内容を実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りのクロス等を飾るなど工夫している。また、季節感を取り入れるため、花や装飾品に気を使っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドを好まない利用者の方には布団を使用して頂くなど、本人の希望を優先し、利用者にとって居心地のよい居室となるよう配慮している。		

自己評価表

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これからの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価構成

・ 理念に基づく運営	項目数	22
1. 理念の共有		3
2. 地域との支えあい		3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		5
4. 理念を実践するための体制		7
5. 人材を育成するための支援		4
・ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		10
1. 相談から理容に至るまでの関係づくりとその対応		4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		6
・ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		17
1. 一人ひとりの把握		3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協議		10
・ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		38
1. その人らしい暮らしの支援		30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		8
・ サービスの成果に関する項目		13
合計		100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事務所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○を付けた項目について、改善目標や取り組み内要を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れて入る点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人を良く知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業者の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員 = 管理者及び常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するように注意してください。

事業所名	グループホームたんぼぼ
ユニット名	東棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338番地
記入者名 (管理者名)	神代 久美子
記入日	平成 19 年 8 月 28 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>理念に基づいた具体的な項目を掲げ、利用者や地域の様々な変化に対応できるよう地域に根付いた事業所の体制づくりを確立していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>現状を維持し、実践することに意義あることを認識し日々努力していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーを介して、老人会や民生委員の方への啓発を行っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>散歩や買い物の機会を活かして、利用者・職員が積極的に関わっていくことが必要である。近隣の方が立ち寄られた時は、気軽に声をかけていただくようお願いしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>幼稚園・小中学生の訪問等に対しては、利用者も生き生きとされており、地域交流の重要性は感じており、今後取組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	交流会の場を活用し、認知症にならないためにはと題して約30分の講和、高齢者の集いの場で高齢者の体操約1時間実施しました。 地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいと思っはいますが、チャンスがありません。	○	老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話し合いや転倒防止等の話ができればよいと考えている。老人会や民生委員を通して、呼びかけていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月1回の全職員勉強会の場を活用して、自己評価及び外部評価の意義を説明し、理解を得ている。また、評価を分析し、できる項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に有意義に活かしています。	○	更に内容のある勉強会にして、全職員が改善意識を持ち積極的に取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	7月までに8回開催しておりますが、内容的には、入所者の状況や行事報告等を行いながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしています。	○	運営推進会議のメンバーから、意見や要望がまだ出にくい状況であり、テーマに沿った意見集約に努めていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と一体となったサービスの向上につながるような働きかけがいまいち弱いようです。	○	ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出来るような関わり合いを作っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している	管理者は、学習の機会が少ないが、制度については一応理解している現状です。職員は、入居者に対象者がいないため、制度について勉強する機会がまだ得られていません。	○	利用者がいつでも制度の活用出来るように、学習の機会を設けることから始めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法については、勉強会等で行っているため、職員は重要性と必要性は理解出来ており、管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待特に言葉による虐待防止に努めています。現在まで報告及び事例はありません。	○	勉強会の機会を利用して、更に理解納得をして虐待等絶対にならないよう徹底したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にて、十分な説明を行い理解を得ています。契約時には、再度説明を行い、契約の終結と解約の場合の疑問に答え、不安解消を図っています。現在まで、トラブルは起きていません。</p>	<p>○</p> <p>現状を維持し、必要により改善してトラブル等の防止に努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別に時間は設けていませんが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていききたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取組んでいきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の都度、面会の少ない方には、電話を利用して、家族へ近況報告を提供する等、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、個々に合わせた報告をしています。</p>	<p>○</p> <p>現状を維持し、必要により改善し家族との連携に努めていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学时に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映できるよう体制を整えています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていききたい。面会や会議の場でも呼びかけていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、勉強会・ミーティングや管理者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていくが、意見を聞く機会を運営者や管理者が定期的に設けて行っていききたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準に沿った人材は確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りができています。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めています。</p>	<p>○</p> <p>看護師等による、専門職員を確保し、広い視野に立った運営を心掛けていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の移動を1名のみ実施しました。又、離職者もありましたが、ホーム長・副ホーム長を持って談話の機会を多くしたため、利用者へのダメージは防止できていると思っています。	○	今後も離職者の問題はあるものと考え、その都度状況に合った対応を考慮していきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては、県認知症介護研修、18年度は、1名申し込んだが該当せず、19年度は2名申し込んでいます。その他、各研修会には機会をとらえ適任者を参加させています。ホーム内では、毎月1回は勉強会を計画実施しています。	○	職場内の勉強の機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修参加の機会を考慮していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加できるように支援していますが、明確にサービスの質の向上には至っていないのが現状です。	○	交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような、年間計画に基づいた参加を心掛けていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めていますが、福利厚生面については、不十分と考えています。(経営上無理な面もある。)	○	職員のストレスを和らげる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、今後も日々努めていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるよう支援しています。	○	介護福祉士等の資格取得に向けての実務研修者に対する援助等考慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用までの期間居所によって異なりますが、担当者が数回訪問し、少しでも人間関係を作るよう努力しています。病院から直接の場合は、看護情報等を頂き、情報収集に努めています。</p>	<p>○</p> <p>努めて多くの情報を収集し、入居された後の安心感の付与に心掛けていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用までの間、ご本人及び家族等が直接ホームに来ていただき、自ら確認され、不安材料の除去に努めています。</p>	<p>○</p> <p>可能な範囲で、人間関係を作り上げられるよう努力していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容に応じ又看護情報に基づき今必要な援助内容を見極め、必要とされている可能なサービスを提供する事に努めています。</p>	<p>○</p> <p>可能な限り細やかな情報収集に努め早くホームの生活に慣れていただくことに留意し努力していく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族に直接ホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子、ご本人の生活歴からあらゆる面を把握することに留意し、概ね2ヶ月間を目標にサービスの開始をしています。1日体験をされた利用者もおられます。</p>	<p>○</p> <p>家族主体での決め事が多いので、本人の印象や相性等を最優先に考慮しながら、納得した上でサービスの利用開始を行っていきたい。</p>
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に生活する時間が長くなることで、家族的な関係に変わってきている。頼みごと自然であり、洗濯や掃除、料理に関しては、学ぶことが多い。淋しいときは寄り添い、時には口論しながら喜怒哀楽を共にしています。</p>	<p>○</p> <p>入居期間が短い利用者もおられるため、家族的雰囲気のなかで、共に支えあう関係作りを行ってきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、利用者が元気に暮らしてくれることを願っており、不安を抱いている家族も多いため、利用者の状態を理解しながら、家族と職員ができることを話し合っています。	○	利用者の状態が変化した時の家族の不安を取り除くことが必要であり、今後の対応を含めて柔軟な対応をしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで独居されていたり、家族と縁遠かった利用者も、入居したことにより、家族の協力もあり、面会や外出の機会を持たれ、本人と家族との関係が良くなったケースが多いようです。	○	家族は入居に関しては、一様に安心されているが、預けっぱなしの傾向にならないように、利用者の思いを家族に伝えながら、より良い関係作りを支援していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族中心の支援になっている場合が多いので、馴染みの方との関係作りが弱いと思われる。馴染みの場所への外出等は、家族への協力も呼びかけているが、十分とはいえません。	○	馴染みの人や場所は、本人の話をもとに、家族への確認と協力が必要であり、今まで以上に、本人・家族との情報交換や支援を行っていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の状況に応じ、テーブルの座席・リビングでの座席や一緒に過ごす方等を考慮して、スタッフが関係づくりの橋渡しに努めています。又、買い物外出等気の合う方同士で行動出来るような支援もしています。	○	利用者の変化に合わせてながら、利用者同士の関係作りを支援していきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	契約を解約された方でも、面会に行き、お元気な姿を見たり、ご家族とも電話を利用し付き合いを大切にしています。	○	地域密着型を考慮し、重要な支援の一つとしても必要であり、引き続き取組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行ったり、面会時に話ができれば、情報として収集している。利用者・家族の意見を検討しながらも最終的には本人の思いや希望を優先しています。</p>	<p>○</p> <p>利用者の思いや希望を優先する体制は変わらないが、本人の思いや希望を一つでも多く聞きだせるような、積極的な支援を行っていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、本人・家族より生活歴を記入していただいた書類や生活環境等の情報を聞き取り、個人台帳に記載しています。入居後に分かった本人や家族からの情報も、随時記載したり申し送りにて情報の共有化に努めています。</p>	<p>○</p> <p>センター方式シートを更に活用し、充実した情報収集に努めていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人・家族からの情報と食い違うパターンが多く、ホームの生活パターンの把握のため、アセスメントや日常のケアでの気づき等分析し、総合的な把握に努めています。</p>	<p>○</p> <p>ご本人の出来る事、出来ないことを、明確に把握し、日常生活に反映していきたい。</p>
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の思いや要望、かつ介護員が収集したアセスメントを管理者が確認し、課題やケアのあり方等総合的に判断し、介護支援専門員がケアプランを作成し、カンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映しています。</p>	<p>○</p> <p>本人・家族の思いや意向をいかに聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の情報収集能力の向上、気づきを積極的に介護計画に反映していきたい。 又、ケアプラン作成時に、家族、医師の参加を呼びかけていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居当初2ヶ月は、情報収集を主体に計画を作成情報の把握に努めています。 毎月モニタリングを実施し、6ヶ月ごとに評価・再アセスメントを行い、介護計画の作成を行っています。また、状態が変化した場合は、随時、介護計画の見直しを行いながら、家族への説明と同意を得ています。</p>	<p>○</p> <p>ご本人の健康・心理上の状況変化に応じて、家族に呼びかけ、一緒にプランの変更作成をしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、まるごとケアに、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を24H対応で記録し、情報を共有している。また、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしています。	○	個別記録の書き方は、職場学習にて学んでいるが、職員の個別差が大きく、時々見直ししながら、レベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療との体制が確立しており、家族・利用者がともに安心して、生活されております。夜中でも体調が急変すれば、まず医師へ連絡し、往診いただきその指示で行動しております。病院が必要な場合は、救急車の手配あるいは、職員が直接病院へ移送し、家族が来られるまで対応しています。	○	家族・利用者の皆様が、いかにしたら安心されるのかを行動の基準として、全職員が対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部の民生委員の方には、GHのあり方や利用者の状況は理解していただいておりますが、事業所から各団体等への啓発と呼びかけは、十分とはいえない状況にあります。	○	関係機関との協働体制を整備して地域資源を十分に活用しながら支援を行っていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族への説明は、入居時に行っており、理解は頂いているが、現在までに医療機関を除き相談を受けたケースはなく、現状にほぼ満足されています。	○	現状を維持し、必要により改善していく。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ訪問し対応していますが、具体化に協働した事例は、未だありません。	○	今後、地域包括支援センターとは、入居時の情報収集、入居後の権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、二つの医療機関から定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族も安心感を得ています。	○	益々協力関係を継続維持していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の勤めもあり、利用者1名は、認知症専門医に主治医として、診察及び相談を受けておられます。又、今後も診断や治療を受けられる体制作りが出来ております。	○	益々協力関係を継続維持していきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所には、看護師が配置されておりません。そのため、2つの医療機関による定期往診、地元の協力医院に往診を受けており、又、整形・歯科医との契約も交わし、24時間対応可能となっております。日常の健康管理や医療管理に活用できる体制になっています。	○	ホーム専任の看護師を努めて早期に配置して利用者の日常の健康管理や医療管理に活用していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携が出来ており、入院時の対応や早期退院に向けた情報交換や相談が出来ています。入院時のホーム側の面会を頻回に行うことで、利用者の状態把握や関係者とのよりの確な情報交換に努めています。	○	入院の必要性から医療機関・家族との連携を図りよりいっそうの信頼関係を築き、努めて入院期間を短縮して可能な限り終末ケアまで継続できるようにしていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時に説明を行ってはいますが、現在までは、家族の理解がなく、終末は、病院での要望があります。	○	いつでも対応出来るように、本人・家族等がかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員の理解と意識付けを行っていききたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「グループホームにおける医療のあり方」として、かかりつけ医の協力を得たり、本人・家族への説明は行っているが、実施例がないため、スタッフの中でも認識に差があります。	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なります。いつでも対応できるように、管理者を中心に、検討や準備を行い、チームとしての支援体制を確立していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の人には、環境の変化が最もダメージの影響が大きいという認識を持って、入居や移住の際に、本人・家族へ十分な説明を行っています。住み替えの希望がある場合は、関係者と十分な話し合いや情報交換を行いながら、入居や退去時期を検討しています。	○	住み替えによるダメージを経験しており、今まで以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な話し合いを行い、ダメージ防止を図っていく。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、全職員勉強会・管理者会議・スタッフミーティング等の場を活用し、職員指導を実施し、業務に活かしている。個人情報の取り扱いについては、使用の同意書をご本人及びご家族から頂いております。	○	ご本人の尊厳を損なうことなく 配慮した言葉かけや対応、個人情報の保護は基本であり、各種機会をとらへ、指導と職員の日々の振り返りが重要と考えます。常に気を配りプライバシーの保護に留意していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他の利用者に酷く迷惑にならない範囲で、本人の思いや希望を優先しながらの援助を基本としています。思いが出にくい方へは、生活歴や趣味等の各種情報を有効に活用し、その中で自己決定の援助を行っています。	○	職員の言葉かけは出来ているが、利用者により意思疎通や表現力も異なるため、個々の能力に合わせた細やかな意志の疎通が図れるよう更に努力していきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を最優先に取り上げ、個別援助をしています。思うように本人の希望が出にくい方に対しては、選択肢を提供しながら、希望に沿うような暮らしを支援しています。	○	利用者の意志の確認を十分に行い、日課で決まった時間もあるが、個々のペースを守りながら、希望に沿った援助をしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、自立に向けた支援をしており、職員が声かけや一部介助により、季節感のある身だしなみを心掛け、又、理容・美容は、出張理容を利用されています。	○	家族へは、季節に応じた衣替えを協力してもらいながら、新しい衣類だけではなく、着慣れた衣類の提供を継続呼びかけていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、下膳や食器洗い等と食事への入所者の関わりは多いが、利用者の生活歴や能力等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行っており、自分から率先して活動されるようになりつつあります。食事の準備・後始末等は当番制にしています。職員と共に、準備や食事、片付けをしています。	○	利用者で得意な料理特に漬物づくり等、更に指導していただけるような雰囲気を作っていきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居の際の聞き取りにて情報を得たり、嗜好を確認しながら、個々の嗜好にあった支援を行っております。時々、味が薄いとの小言がありますが、食事に対する大きな不満は、聞かれません。	○	利用者からの要望を可能な範囲で取り上げられるよう、職員が更に、調理に対して、勉強努力していきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立に向けての取り組みは、永遠の課題と考え、排泄パターンや習慣を把握する事から始め、ご本人に合った支援を行っている。紙パンツや尿パットの使用量が少なくなったり、夜間帯のみ着用されるようになり、改善が見られています。現在オムツ使用常時1、夜間1	○	昼間と夜間帯では対応も異なるが、夜間対のケアを中心に、定期的な声かけと歩行介助等を行いながら、全員が安全で気持ちよく排泄できるように支援していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日に時間を設定し入浴を実施しておりますが、拒否が強い利用者に対しては、時間や回数等は利用者の希望を取り入れています。ご本人の希望によっては、夜・朝の入浴も実施しています。	○	体調を苦慮しながら、ご本人の希望に沿って随時入浴可能な体制にしていきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣は、本人・家族より情報は得ており、安眠の支援は出来ている。夜間不眠の方が1名居られるが、いろいろ工夫して夜間帯睡眠を徹底しようとしたのですが、現在は、無理にせず1日を通して睡眠を確保しています。	○	可能な範囲で全員の夜間帯睡眠の確保に取り組んでいきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運営理念の実行につながる最も重要な支援であり、利用者の生活歴や特技を活かすことで、楽しみや生きがいを持っている。編み物や洋裁、料理等と様々であるが、職員から活動の場を設けることで、本人の力が発揮出来るように支援しています。	○	認知症の進行や身体機能の低下により、忘れてきたり出来なくなってきているが、昔を思い出している力を出せるように働きかけを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意のもと、トラブル防止対策として一部の方を除き、全面管理を行っている。支払い等の金銭感覚の維持に努めるため、各自500円を限度とし、買い物ツアーを計画し、お金の使用感覚を考慮した支援をしています。	○	ご本人の力量に応じて、お金の使用を自分で管理できるようなシステム作りをしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、戸外へ出られることを好まれており、事あるごとに外出の機会を作り支援しています。花見・買い物等に行ったり、畑仕事・庭の草むしりをされており、利用者の希望を取り入れた支援をしています。	○	全員で出かけることが多く、個々の希望が叶わない事もあり、食材の買出し等の機会をとらえ積極的に引き出し、職員の声かけで希望を聞きだすチャンスと考え外出の機会を作るように努力をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回、家族同伴で日帰り旅行を実施しています。又、利用者の希望が、叶えられるように、計画的に花見、温泉、外食等機会をとらえ外出支援をしています。	○	今後も積極的に外出等実施していきたい。又、1泊旅行も計画してみたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者は、帰宅願望があり、依頼を受け、取りついでいますが、家族に説得・納得されており、手紙については、やり取りがありません。A-4用紙に、図柄を印刷した物に暑中見舞いを作成してもらい、面会されたご家族等にお見せしました。殆どの家族が、作品に感心されていました。	○	帰宅願望の電話は、頻繁になると家族が拒否される傾向にあり、他の方法を検討していく。又、手紙については、年賀状の作成等考慮していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、利用者・スタッフで迎えており、湯茶等の接待をして、気軽に訪問できると喜ばれています。居室で過ごされることが多いが、大人数の場合は、応接室を開放しています。帰られるときは、利用者・スタッフでお見送りをしています。	○	今後も、訪問面会が、今まで以上に多数来訪されるように心配りをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、当然の事であり、全職員が絶対やってはならない当然のこととして理解が来ています。身体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	○	常に目を光らし絶対に身体拘束をしないケアを実践していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意志で自由に出入りが出来る生活を支え、各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していません。鍵をかける弊害について全職員が理解しており、施錠しなくてすむように見守りや付き添いにて対応しています。	○	すべての職員が、鍵をかけずにすむケアを常に認識し、利用者が自由に行動される力を発揮できるように継続していきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者は、日中はリビングでの生活が主であり、様子確認は出来やすく、廊下は一望でき確認できます。訪室の際の声かけとノックは原則であり、プライバシーへの配慮は来ています。夜間は、定期的な巡回にて対応しています。	○	スタッフの相互連携を確実にし、全体の遠位見守りの実践を継続していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にあわせ注意が必要な物品は何かを職員が理解しており、その場面場面で対応しています。現在までは、注意の必要な物品による事故はあっておりません。	○	日常生活に必要な物品は、当然あるべきところにあるという観念で、対応していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状況に応じ 転倒や窒息、誤薬、行方不明、火災等の事故防止について検討し、職員が共有し徹底しています。事故・ヒヤリハット報告等を活用し安全管理意識を堅持し事故防止には万全を期しています。火災防止としては、年2回防災訓練を実施しています。	○	事業所内の取り組みは徹底できているが、行方不明や火災等の協力体制としては、不十分で今後検討していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを全職員で検討作成し、職員の見やすい位置に掲示しています。応急手当や初期対応についての知識は勉強会を活用し、理解しているが、実技訓練は、出来ていません。	○	応急手当や初期対応の実技訓練を実施して状況に応じて、対応できるようにしていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策で最重要事項は火災と考え、年2回の火災訓練を昼夜を想定し、実施しています。特に避難誘導訓練を実際にその日の勤務員を持って対応しております。地域との協力体制としては、1回は消防署に依頼し指導を受けております。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に、起こりうるリスクについてはご家族に説明し、ご理解を得ています。 ご利用者の個々の状態の変化により起こりえる転倒や事故等のリスクについては、その都度ご家族に説明し、一緒に対策を考え対応しています。	○	ご利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて、ご家族に説明し、理解納得され、三者のより良い関係を継続していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック(日に1回)、往診(隔週)、健康診断(年1回)実施しています。 日々の体調の変化や異常に対しては、業務日誌、まるごとケアに、細かく記録しており、情報の共有化と対応ができています。	○	ご利用者に一寸した変化やサインを見落とさないように、職員の能力の向上を図っていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の一人ひとりに使用ごとに再分割し服薬に間違いのないようにしています。服薬の際は全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を確実に実施しています。	○	確実に支援出来ているが、薬の変更があった場合は、確実に申し送りを行って誤りがないよう配慮していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給に力を入れているが、個人差もあり、思うような援助が出来ていない。毎朝、体操・散歩の働きかけは出来ています。	○	嗜好により、牛乳やコーヒー、紅茶等の選択肢を用意し、個々の要求に応えていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけと一部介助を行っています。自歯のある方は、特に磨き残しがないように注意しております。又、歯科受診も受けれる体制作りが出来ており、個々の状態に合わせて活用出来ています。	○	自分から動かれる利用者が少ないため、積極的な声かけを行いながら、習慣となるように支援していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指導のもと、糖尿病や便秘症に合わせた食事形態を実施したり、刻み食や粥食も取り入れています。	○	食事摂取や水分確保の少ない利用者があり、状態を把握しながら、主治医に相談しながら対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、職員に教育しています。職員のレベルアップと感染防止に向けた取り組みを実践しています。	○	今後も機会をとらえ、職員のレベルアップを図っていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃・管理は、確実に施行出来ています。毎日、食材のチェックを行っており、新鮮で安全な使用が来ています。利用者・職員と共に、調理前の手洗いを実施し、衛生管理に努めています。	○	食中毒防止には、引き続き細心の注意を払うように、継続指導をしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を入ると常に明るくさわやかな雰囲気づくりに心掛けています。	○	施設がやや高台にある関係で入り口の道路はやや急坂になっているが、看板も木版で作成し、門扉もなく、訪問しやすいように工夫しています。道路沿いに四季折々のお花を植えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は 明るい雰囲気です採光も良く、環境にも恵まれており、不快な音は殆ど聞こえてこない。又、リビングや廊下には利用者の作品が飾ってあり、玄関には豪華な装飾品はないが、季節の花や家庭的な雰囲気作りに心がけている。	○	台所のテーブルには、職員と、ご利用者との共同作によるクロス等がかざり付けをしたり季節の花を飾っており、今後も上手に季節感を取り入れていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えたり、食堂を利用しながら思い思いに過ごされている。中にはポーチのベンチを利用される方もおられる。	○	共用空間は限られているが、ソファの配置やいすの活用により、活用エリアは拡大すると思われるため、検討しながら対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>利用者の生活や趣味が伝わってくるような物品についてお願いしていきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>居室を含んで、前室内の温度・換気等ご利用者が不快感なく過ごされるように、こまめに対応していきたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善すべきところは、改善していく方向で検討していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>日常のケアでの気付きや、申し送り等で出たことを情報とし、全員で検討し、日々のケアに取り入れていきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>四季折々にお花が、常に咲いているような環境づくりをしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあって、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける、大きな工場もあり、民家も点在しています。又、近隣には、いろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて、季節感を味わっていただいております。

ホーム内も常に野の花、山の花に気を配って、身近に四季を感じていただいております。

米作農家と直接契約し砂地で収穫された美味しい米を購入し、又、卵は、飼育農家から直接新鮮な鶏卵を購入する等、食のおいしさを追求した料理作りに専念しております。

行事や、日々の暮らしのスナップ写真を可能な限り撮って、ビデオ風に編集し、音楽を入れて動く映像としてプロゼクターにて大きく映し出してみただくと、昨日のことも改めて思い出されたりして楽しんでおられます。

2つの医療機関からの往診も可能であり、近くに契約した歯科医もあり、整形外科医・精神科医との連携も密に取れ、ご家族が心配される医療機関との密接な連携が確保できていて、安心できるホームであります。

『寄り添うケア』を基本とし、地域密着の実践に向け、これからは益々行事等は、特に地域とともに参加して楽しみ、地域とともに支えあうホームづくりに取り組んでいく所存です。

自己評価表

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これからの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価構成

・ 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	22
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	5
5. 人材を育成するための支援	7
・ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	4
1. 相談から理容に至るまでの関係づくりとその対応	10
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	4
・ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	17
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	3
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協議	1
・ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	10
1. その人らしい暮らしの支援	38
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	30
・ サービスの成果に関する項目	8
	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事務所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○を付けた項目について、改善目標や取り組み内要を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れて入る点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人を良く知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業者の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職 員 = 管理者及び常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するように注意してください。

事業所名	グループホームたんぼぼ
ユニット名	西 棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338番地
記入者名 (管理者名)	永 江 悦 子
記入日	平成 19 年 8 月 28 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	<p>理念に基づいた具体的な項目を掲げ、利用者や地域の様々な変化に対応できるよう地域に根付いた事業所の体制づくりを確立していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	<p>現状を維持し、実践することに意義あることを認識し日々努力していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーを介して、老人会や民生委員の方への啓発を行っていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	<p>散歩や買い物の機会を活かして、利用者・職員が積極的に関わっていくことが必要である。近隣の方が立ち寄られた時は、気軽に声をかけていただくようお願いしていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	<p>幼稚園・小中学生の訪問等に対しては、利用者も生き生きとされており、地域交流の重要性は感じており、今後取組んでいきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>交流会の場を活用し、認知症にならないためにはと題して約30分の講和、高齢者の集いの場で高齢者の体操約1時間実施しました。</p> <p>地域の高齢者等と話し合う機会を得ることで、少しでも暮らしに役立てたいと思っはいますが、チャンスがありません。</p>	○	<p>老人会や地域住民の集まり等で、福祉に関する話し合いや転倒防止等の話ができればよいと考えている。老人会や民生委員を通して、呼びかけていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>毎月1回の全職員勉強会の場を活用して、自己評価及び外部評価の意義を説明し、理解を得ている。また、評価を分析し、できる項目から全体で取り組んでおり、改善できた項目は業務に有意義に活かしています。</p>	○	<p>更に内容のある勉強会にして、全職員が改善意識を持ち積極的に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>7月までに8回開催しておりますが、内容的には、入所者の状況や行事報告等を行いながら、メンバーからの意見や要望及び評価を頂き、サービス向上に活かしています。</p>	○	<p>運営推進会議のメンバーから、意見や要望がまだ出にくい状況であり、テーマに沿った意見集約に努めていきたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政と一体となったサービスの向上につながるような働きかけがいまいち弱いようです。</p>	○	<p>ホーム側から積極的に訪問し、介護保険や入所相談等の情報交換が気軽に出来るような関わり合いを作っていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は、学習の機会が少ないが、制度については一応理解している現状です。職員は、入居者に対象者がいないため、制度について勉強する機会がまだ得られていません。</p>	○	<p>利用者がいつでも制度の活用が出来るように、学習の機会を設けることから始めたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、勉強会等で行っているため、職員は重要性と必要性は理解出来ており、管理者は自宅や事業所内で虐待がないように注意を払い、虐待特に言葉による虐待防止に努めています。現在まで報告及び事例はありません。</p>	○	<p>勉強会の機会を利用して、更に理解納得をして虐待等絶対にならないよう徹底したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にて、十分な説明を行い理解を得ています。契約時には、再度説明を行い、契約の終結と解約の場合の疑問に答え、不安解消を図っています。現在まで、トラブルは起きていません。</p>	<p>○</p> <p>現状を維持し、必要により改善してトラブル等の防止に努めていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別に時間は設けていませんが、日常のケアの中で利用者の意見や訴えを聞く機会を得ており、カルテに記入し、職員が代弁して申し送りやカンファレンスで対応策を検討し、運営に反映させています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていききたい。意思疎通が困難な利用者からの意見集約に重点的に取組んでいきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>面会の都度、面会の少ない方には、電話を利用して、家族へ近況報告を提供する等、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の移動等について、個々に合わせた報告をしています。</p>	<p>○</p> <p>現状を維持し、必要により改善し家族との連携に努めていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>「御意見箱」を玄関に設置しており、面会時や見学时に、意見、不満、苦情、要望を受け付けている。また、口頭や運営推進会議の場でも気軽に意見の受け入れを行っており、寄せられた苦情に対しては、担当者が速やかに対応策を検討し、運営に反映できるよう体制を整えています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていききたい。面会や会議の場でも呼びかけていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、勉強会・ミーティングや管理者会議にて、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、その場で対応策を検討し、運営に反映させています。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満、苦情を気軽に言えるような雰囲気作りや迅速な対応を行っていくが、意見を聞く機会を運営者や管理者が定期的に設けて行っていききたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>基準に沿った人材は確保しており、利用者や家族の状況の変化や要望に柔軟に対応できる体制作りができています。そのために、運営者と管理者は常に話し合いや勤務の調整に努めています。</p>	<p>○</p> <p>看護師等による、専門職員を確保し、広い視野に立った運営を心掛けていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の移動を1名のみ実施しました。又、離職者もありましたが、ホーム長・副ホーム長を持って談話の機会を多くしたため、利用者へのダメージは防止できていると思っています。	○	今後も離職者の問題はあるものと考え、その都度状況に合った対応を考慮していきたい。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修としては、県認知症介護研修、18年度は、1名申し込んだが該当せず、19年度は2名申し込んでいます。その他、各研修会には機会をとらえ適任者を参加させています。ホーム内では、毎月1回は勉強会を計画実施しています。	○	職場内の勉強の機会は充実してきているが、外部研修の機会が少なく、職員のレベルアップのためには、計画的な研修参加の機会を考慮していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会のメンバーとして、管理者や職員が勉強会や相互交流の活動に参加できるように支援していますが、明確にサービスの質の向上には至っていないのが現状です。	○	交流の機会も少なく、限られた職員の参加が主なため、全員が活動に参加できるような、年間計画に基づいた参加を心掛けていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は、職員の希望を取り入れた、負担のない勤務に努めていますが、福利厚生面については、不十分と考えています。(経営上無理な面もある。)	○	職員のストレスを和らげる機会を作ることが必要であり、気軽に話し合え、気軽に意見が言える人間関係を保つことに、今後も日々努めていきたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、個々の努力や実績を活かした、役割や担当制を実施することで、各自の向上心を持って働けるように努めている。また、個人目標を掲示し、目標を持って意欲的に働けるよう支援しています。	○	介護福祉士等の資格取得に向けての実務研修者に対する援助等考慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用までの期間居所によって異なりますが、担当者が数回訪問し、少しでも人間関係を作るよう努力しています。病院から直接の場合は、看護情報等を頂き、情報収集に努めています。</p>	<p>○</p> <p>努めて多くの情報を収集し、入居された後の安心感の付与に心掛けていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談から利用までの間、ご本人及び家族等が直接ホームに来ていただき、自ら確認され、不安材料の除去に努めています。</p>	<p>○</p> <p>可能な範囲で、人間関係を作り上げられるよう努力していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容に応じ又看護情報に基づき今必要な援助内容を見極め、必要とされている可能なサービスを提供する事に努めています。</p>	<p>○</p> <p>可能な限り細やかな情報収集に努め早くホームの生活に慣れていただくことに留意し努力していく。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族に直接ホームを見学してもらい、本人の意見や見学の様子、ご本人の生活歴からあらゆる面を把握することに留意し、概ね2ヶ月間を目標にサービスの開始をしています。1日体験をされた利用者もおられます。</p>	<p>○</p> <p>家族主体での決め事が多いので、本人の印象や相性等を最優先に考慮しながら、納得した上でサービスの利用開始を行っていきたい。</p>
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一緒に生活する時間が長くなることで、家族的な関係に変わってきている。頼みごと自然であり、洗濯や掃除、料理に関しては、学ぶことが多い。淋しいときは寄り添い、時には口論しながら喜怒哀楽を共にしています。</p>	<p>○</p> <p>入居期間が短い利用者もおられるため、家族的雰囲気のなかで、共に支えあう関係作りを行ってきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族は、利用者が元気に暮らしてくれることを願っており、不安を抱いている家族も多いため、利用者の状態を理解しながら、家族と職員ができることを話し合っています。	○	利用者の状態が変化した時の家族の不安を取り除くことが必要であり、今後の対応を含めて柔軟な対応をしていきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	今まで独居されていたり、家族と縁遠かった利用者も、入居したことにより、家族の協力もあり、面会や外出の機会を持たれ、本人と家族との関係が良くなったケースが多いようです。	○	家族は入居に関しては、一様に安心されているが、預けっぱなしの傾向にならないように、利用者の思いを家族に伝えながら、より良い関係作りを支援していきたい。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族中心の支援になっている場合が多いので、馴染みの方との関係作りが弱いと思われる。馴染みの場所への外出等は、家族への協力も呼びかけているが、十分とはいえません。	○	馴染みの人や場所は、本人の話をもとに、家族への確認と協力が必要であり、今まで以上に、本人・家族との情報交換や支援を行っていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の状況に応じ、テーブルの座席・リビングでの座席や一緒に過ごす方等を考慮して、スタッフが関係づくりの橋渡しに努めています。又、買い物外出等気の合う方同士で行動出来るような支援もしています。	○	利用者の変化に合わせてながら、利用者同士の関係作りを支援していきたい。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	契約を解約された方でも、面会に行き、お元気な姿を見たり、ご家族とも電話を利用し付き合いを大切にしています。	○	地域密着型を考慮し、重要な支援の一つとしても必要であり、引き続き取組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に、重要な情報として、本人・家族より聞き取りを行ったり、面会時に話ができれば、情報として収集している。利用者・家族の意見を検討しながらも最終的には本人の思いや希望を優先しています。</p>	<p>○</p> <p>利用者の思いや希望を優先する体制は変わらないが、本人の思いや希望を一つでも多く聞きだせるような、積極的な支援を行っていきたい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時に、本人・家族より生活歴を記入していただいた書類や生活環境等の情報を聞き取り、個人台帳に記載しています。入居後に分かった本人や家族からの情報も、随時記載したり申し送りにて情報の共有化に努めています。</p>	<p>○</p> <p>センター方式シートを更に活用し、充実した情報収集に努めていきたい。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>本人・家族からの情報と食い違うパターンが多く、ホームの生活パターンの把握のため、アセスメントや日常のケアでの気付き等分析し、総合的な把握に努めています。</p>	<p>○</p> <p>ご本人の出来る事、出来ないことを、明確に把握し、日常生活に反映していきたい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の思いや要望、かつ介護員が収集したアセスメントを管理者が確認し、課題やケアのあり方等総合的に判断し、介護支援専門員がケアプランを作成し、カンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映しています。</p>	<p>○</p> <p>本人・家族の思いや意向をいかに聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の情報収集能力の向上、気付きを積極的に介護計画に反映していきたい。 又、ケアプラン作成時に、家族、医師の参加を呼びかけていきたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居当初2ヶ月は、情報収集を主体に計画を作成情報の把握に努めている。 毎月モニタリングを実施し、6ヶ月ごとに評価・再アセスメントを行い、介護計画の作成を行っている。また、状態が変化した場合は、随時、介護計画の見直しを行いながら、家族への説明と同意を得ています。</p>	<p>○</p> <p>ご本人の健康・心理上の状況変化に応じて、家族に呼びかけ、一緒にプランの変更作成をしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、まるごとケアに、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を24時間対応で記録し、情報を共有しています。また、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしています。	○	個別記録の書き方は、職場学習にて学んでいるが、職員の個別差が大きく、時々見直ししながら、レベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療との体制が確立しており、家族・利用者がともに安心して、生活されております。夜中でも体調が急変すれば、まず医師へ連絡し、往診いただきその指示で行動しております。病院が必要な場合は、救急車の手配あるいは、職員が直接病院へ移送し、家族が来られるまで対応しています。	○	家族・利用者の皆様が、いかにしたら安心されるのかを行動の基準として、全職員が対応していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部の民生委員の方には、GHのあり方や利用者の状況は理解していただいておりますが、事業所から各団体等への啓発と呼びかけは、十分とはいえない状況にあります。	○	関係機関との協働体制を整備して地域資源を十分に活用しながら支援を行っていきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族への説明は、入居時に行っており、理解は頂いているが、現在までに医療機関を除き相談を受けたケースはなく、現状にほぼ満足されています。	○	現状を維持し、必要により改善していく。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ訪問し対応していますが、具体化に協働した事例は、未だありません。	○	今後、地域包括支援センターとは、入居時の情報収集、入居後の権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等についての話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、二つの医療機関から定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族も安心感を得ています。	○	益々協力関係を継続維持していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の勤めもあり、利用者1名は、認知症専門医に主治医として、診察及び相談を受けておられます。又、今後も診断や治療を受けられる体制作りが出来ております。	○	益々協力関係を継続維持していきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所には、看護師が配置されておりません。そのため、2つの医療機関による定期往診、地元の協力医院に往診を受けており、又、整形・歯科医との契約も交わし、24時間対応可能となっております。日常の健康管理や医療管理に活用できる体制になっています。	○	ホーム専任の看護師を努めて早期に配置して利用者の日常の健康管理や医療管理に活用していく。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携が出来ており、入院時の対応や早期退院に向けた情報交換や相談が出来ています。入院時のホーム側の面会を頻回に行うことで、利用者の状態把握や関係者とのよりの確な情報交換に努めています。	○	入院の必要性から医療機関・家族との連携を図りよりいっそうの信頼関係を築き、努めて入院期間を短縮して可能な限り終末ケアまで継続できるようにしていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方については、入居時に説明を行ってはいますが、現在までは、家族の理解がなく、終末は、病院での要望があります。	○	いつでも対応出来るように、本人・家族等がかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員の理解と意識付けを行っていききたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「グループホームにおける医療のあり方」として、かかりつけ医の協力を得たり、本人・家族への説明は行っているが、実施例がないため、スタッフの中でも認識に差があります。	○	重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なります。いつでも対応できるように、管理者を中心に、検討や準備を行い、チームとしての支援体制を確立していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の人には、環境の変化が最もダメージの影響が大きいという認識を持って、入居や移住の際に、本人・家族へ十分な説明を行っています。住み替えの希望がある場合は、関係者と十分な話し合いや情報交換を行いながら、入居や退去時期を検討しています。	○	住み替えによるダメージを経験しており、今まで以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な話し合いを行い、ダメージ防止を図っていく。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については、全職員勉強会・管理者会議・スタッフミーティング等の場を活用し、職員指導を実施し、業務に活かしている。個人情報の取り扱いについては、使用の同意書をご本人及びご家族から頂いております。	○	ご本人の尊厳を損なうことなく 配慮した言葉かけや対応、個人情報の保護は基本であり、各種機会をとらへ、指導と職員の日々の振り返りが重要と考えます。常に気を配りプライバシーの保護に留意していきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	他の利用者に酷く迷惑にならない範囲で、本人の思いや希望を優先しながらの援助を基本としています。思いが出にくい方へは、生活歴や趣味等の各種情報を有効に活用し、その中で自己決定の援助を行っています。	○	職員の言葉かけは出来ているが、利用者により意思疎通や表現力も異なるため、個々の能力に合わせた細やかな意志の疎通が図れるよう更に努力していききたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を最優先に取り上げ、個別援助をしています。思うように本人の希望が出にくい方に対しては、選択肢を提供しながら、希望に沿うような暮らしを支援しています。	○	利用者の意志の確認を十分に行い、日課で決まった時間もあるが、個々のペースを守りながら、希望に沿った援助をしていききたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、自立に向けた支援をしており、職員が声かけや一部介助により、季節感のある身だしなみを心掛け、又、理容・美容は、出張理容を利用されています。	○	家族へは、季節に応じた衣替えを協力してもらいながら、新しい衣類だけではなく、着慣れた衣類の提供を継続呼びかけていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、下膳や食器洗い等と食事への入所者の関わりは多いが、利用者の生活歴や能力等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行っており、自分から率先して活動されるようになっていきます。職員と共に、調理準備や配膳、片付けをしています。	○	利用者で得意な料理特に漬物づくり等、更に指導していただけるような雰囲気を作っていきたい。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居の際の聞き取りにて情報を得たり、嗜好を確認しながら、個々の嗜好にあった支援を行っております。時々、味が薄いとの小言がありますが、食事に対する大きな不満は、聞かれません。	○	利用者からの要望を可能な範囲で取り上げられるよう、職員が更に、調理に対して、勉強努力していきたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立に向けての取り組みは、永遠の課題と考え、排泄パターンや習慣を把握する事から始め、ご本人に合った支援を行っている。紙パンツや尿パットの使用量が少なくなったり、夜間帯のみ着用されるようになり、改善が見られています。現在オムツ使用者は居られない。	○	昼間と夜間帯では対応も異なるが、夜間対のケアを中心に、定期的な声かけと歩行介助等を行いながら、全員が安全で気持ちよく排泄できるように支援していきたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日に時間を設定し入浴を実施しておりますが、拒否が強い利用者に対しては、時間や回数等は利用者の希望を取り入れています。ご本人の希望によっては、夜・朝の入浴も実施しています。	○	体調を苦慮しながら、ご本人の希望に沿って随時入浴可能な体制にしていきたい。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣は、本人・家族より情報は得ており、安眠の支援は出来ている。夜間不眠の方が1名居られるが、いろいろ工夫して夜間帯睡眠を徹底しようとしたのですが、現在は、無理にせず1日を通して睡眠を確保しています。	○	可能な範囲で全員の夜間帯睡眠の確保に取り組んでいきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	運営理念の実行につながる最も重要な支援であり、利用者の生活歴や特技を活かすことで、楽しみや生きがいを持っている。編み物や洋裁、料理等と様々であるが、職員から活動の場を設けることで、本人の力が発揮出来るように支援しています。	○	認知症の進行や身体機能の低下により、忘れてきたり出来なくなってきているが、昔を思い出している力を出せるように働きかけを行っていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の同意のもと、トラブル防止対策として一部の方を除き、全面管理を行っている。支払い等の金銭感覚の維持に努めるため、各自500円を限度とし、買い物ツアーを計画し、お金の使用感覚を考慮した支援をしています。	○	ご本人の力量に応じて、お金の使用を自分で管理できるようなシステム作りをしていきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は、戸外へ出られることを好まれており、事あるごとに外出の機会を作り支援しています。花見・買い物等に行ったり、畑仕事・庭の草むしりをされており、利用者の希望を取り入れた支援をしています。	○	全員で出かけることが多く、個々の希望が叶わない事もあり、食材の買出し等の機会をとらえ積極的に引き出し、職員の声かけで希望を聞きだすチャンスと考え外出の機会を作るように努力をしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回、家族同伴で日帰り旅行を実施しています。又、利用者の希望が、叶えられるように、計画的に花見、温泉、外食等機会をとらえ外出支援をしています。	○	今後も積極的に外出等実施していきたい。又、1泊旅行も計画してみたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される利用者は、帰宅願望があり、依頼を受け、取りついでいますが、家族に説得・納得されており、手紙については、やり取りがありません。A-4用紙に、図柄を印刷した物に暑中見舞いを作成してもらい、面会されたご家族等にお見せしました。殆どの家族が、作品に感心されていました。	○	帰宅願望の電話は、頻繁になると家族が拒否される傾向にあり、他の方法を検討していく。又、手紙については、年賀状の作成等考慮していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は、利用者・スタッフで迎えており、湯茶等の接待をして、気軽に訪問できると喜ばれています。居室で過ごされることが多いが、大人数の場合は、応接室を開放しています。帰られるときは、利用者・スタッフでお見送りをしています。	○	今後も、訪問面会が、今まで以上に多数来訪されるように心配りをしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のないケアは、当然の事であり、全職員が絶対やってはならない当然のこととして理解が来ています。身体的な禁止行為は正しく理解できた上で、身体拘束のないケアに取り組んでいます。	○	常に目を光らし絶対に身体拘束をしないケア実践していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自分の意志で自由に出入りが出来る生活を支え、各居室には鍵はなく、日中は玄関も施錠していません。鍵をかける弊害について全職員が理解しており、施錠しなくてすむように見守りや付き添いにて対応しています。	○	すべての職員が、鍵をかけずにすむケアを常に認識し、利用者が自由に行動される力を発揮できるように継続していきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者は、日中はリビングでの生活が主であり、様子確認は出来やすく、廊下は一望でき確認できます。訪室の際の声かけとノックは原則であり、プライバシーへの配慮は来ています。夜間は、定期的な巡回にて対応しています。	○	スタッフの相互連携を確実にし、全体の遠位見守りの実践を継続していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にあわせ注意が必要な物品は何かを職員が理解しており、その場面場面で対応しています。現在までは、注意の必要な物品による事故はあっておりません。	○	日常生活に必要な物品は、当然あるべきところにあるという観念で、対応していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	現在の利用者の状況に応じ 転倒や窒息、誤薬、行方不明、火災等の事故防止について検討し、職員が共有し徹底しています。事故・ヒヤリハット報告等を活用し安全管理意識を堅持し事故防止には万全を期しています。火災防止としては、年2回防災訓練を実施しています。	○	事業所内の取り組みは徹底できているが、行方不明や火災等の協力体制としては、不十分で今後検討していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応マニュアルを全職員で検討作成し、職員の見やすい位置に掲示しています。応急手当や初期対応についての知識は勉強会を活用し、理解しているが、実技訓練は、出来ていません。	○	応急手当や初期対応の実技訓練を実施して状況に応じて、対応できるようにしていきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策で最重要事項は火災と考え、年2回の火災訓練を昼夜を想定し、実施しています。特に避難誘導訓練を実際にその日の勤務員を持って対応しております。地域との協力体制としては、1回は消防署に依頼し指導を受けております。	○	事業所内の訓練は現状を維持していく。地域の方との協力体制を図りながら、合同訓練を行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居契約時に、起こりうるリスクについてはご家族に説明し、ご理解を得ています。 ご利用者の個々の状態の変化により起こりえる転倒や事故等のリスクについては、その都度ご家族に説明し、一緒に対策を考え対応しています。	○	ご利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて、ご家族に説明し、理解納得され、三者のより良い関係を継続していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック(日に1回)、往診(隔週)、健康診断(年1回)実施しています。 日々の体調の変化や異常に対しては、業務日誌、まるごとケアに、細かく記録しており、情報の共有化と対応ができています。	○	ご利用者に一寸した変化やサインを見落とさないように、職員の能力の向上を図っていきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の一人ひとりに使用ごとに再分割し服薬に間違いのないようにしています。服薬の際は全介助、一部介助等にて異なるが、いずれも服薬の確認と服薬後の症状の変化の確認行為を確実に実施しています。	○	確実に支援出来ているが、薬の変更があった場合は、確実に申し送りを行って誤りがないよう配慮していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給に力を入れているが、個人差もあり、思うような援助が出来ていない。毎朝、体操・散歩の働きかけは出来ています。	○	嗜好により、牛乳やコーヒー、紅茶等の選択肢を用意し、個々の要求に応えていきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけと一部介助を行っています。自歯のある方は、特に磨き残しがないように注意しております。又、歯科受診も受けれる体制作りが出来ており、個々の状態に合わせて活用出来ています。	○	自分から動かれる利用者が少ないため、積極的な声かけを行いながら、習慣となるように支援していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指導のもと、糖尿病や便秘症に合わせた食事形態を実施したり、刻み食や粥食も取り入れています。	○	食事摂取や水分確保の少ない利用者があり、状態を把握しながら、主治医に相談しながら対応していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、職員に教育しています。職員のレベルアップと感染防止に向けた取り組みを実践しています。	○	今後も機会をとらえ、職員のレベルアップを図っていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の清掃・管理は、確実に施行出来ています。毎日、食材のチェックを行っており、新鮮で安全な使用ができています。利用者・職員と共に、調理前の手洗いを実施し、衛生管理に努めています。	○	食中毒防止には、引き続き細心の注意を払うように、継続指導をしていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を入ると常に明るくさわやかな雰囲気づくりに心掛けています。	○	施設がやや高台にある関係で入り口の道路はやや急坂になっているが、看板も木版で作成し、門扉もなく、訪問しやすいように工夫しています。道路沿いに四季折々のお花を植えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は 明るい雰囲気です採光も良く、環境にも恵まれており、不快な音は殆ど聞こえてこない。又、リビングや廊下には利用者の作品が飾っており、玄関には豪華な装飾品はないが、季節の花や家庭的な雰囲気作りに心がけている。	○	台所のテーブルには、職員と、ご利用者との共同作によるクロス等がかざり付けをしたり季節の花を飾っており、今後も上手に季節感を取り入れていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置を変えたり、食堂を利用しながら思い過ごされている。中にはポーチのベンチを利用される方もおられる。	○	共用空間は限られているが、ソファの配置やいすの活用により、活用エリアは拡大すると思われるため、検討しながら対応していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>利用者の生活や趣味が伝わってくるような物品についてお願いしていきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	<p>居室を含んで、前室内の温度・換気等ご利用者が不快感なく過ごされるように、こまめに対応していきたい。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	○	<p>利用者の高齢化や身体機能の低下等により、今後改善すべきところは、改善していく方向で検討していきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	○	<p>日常のケアでの気付きや、申し送り等で出たことを情報とし、全員で検討し、日々のケアに取り入れていきたい。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	<p>四季折々にお花が、常に咲いているような環境づくりをしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自然豊かな田園風景を眺望できる小高い丘の上にあって、すぐ近くには、毎年お花見の招待をしていただける、大きな工場もあり、民家も点在しています。又、近隣には、いろいろなお花の名所に恵まれており、機会あるごとに出かけて、季節感を味わっていただいております。

ホーム内も常に野の花、山の花に気を配って、身近に四季を感じていただいております。

米作農家と直接契約し砂地で収穫された美味しい米を購入し、又、卵は、飼育農家から直接新鮮な鶏卵を購入する等、食のおいしさを追求した料理作り